

各位

日本農産工業株式会社

2011年10～12月期の畜産配合飼料価格について

畜産配合飼料価格改定額

弊社は、2011年10～12月期の畜産配合飼料価格につきまして以下の飼料原料情勢等に基づき、2011年7～9月期に比較して全国全畜種総平均トン当たり約800円値下げすることを決定致しました。なお、改定額は地域別・畜種用途別・銘柄別に異なります。

飼料原料・外国為替情勢について

1. 原料(飼料穀物)

直近のシカゴ定期とうもろこし相場は¢720～750/ブッシェルの範囲で推移しています。7月に米国中西部を襲った熱波の影響で生産数量が減少したこと、エタノール向けの需要が堅調なことから需給逼迫の懸念があります。今後は価格高騰による需要減少の動きがあると見られますが、米国のとうもろこし在庫率は5%台の低水準であり価格は上昇基調にあります。

2. 副原料(植物蛋白原料)

シカゴ定期大豆粕相場は\$350～380/ショートトンの範囲で推移しています。とうもろこし同様に大豆も米国の高温乾燥の影響で生産数量が減少したと予測されていますが、需要面では中国が南米産大豆を中心に買い付けている模様で、米国産大豆の買い付けに戻っていないことが大豆相場上昇を抑制していると推測されます。

10～12月期間渡し条件の国内大豆粕価格は円高の影響もあり、7～9月期間と比較すると小幅な値下がりとなる見込みです。

3. 海上運賃

米国ガルフ/日本間パナマックス級本船の運賃は\$50台後半水準での取引となっています。世界的な大型船舶の供給は需要に対してやや余裕がある状況ですが、燃料価格が堅調に推移しているため運賃相場は緩やかに上昇しています。

4. 外国為替

米国の景気減速懸念および欧州諸国の財政問題によりリスク回避の動きが見られ、円が買われやすい状況になっています。直近のドル円相場は76円～78円/ドルの範囲となっており小幅な値動きになっています。